

暮らしを支えるみなとの情報誌
Vol.99 May 2022

100th
since 1922
Anniversary
日本港湾協会

港湾

5

月号

特集

●第95回定時総会記念
新しい日常の暮らしと経済を支える
九州の港湾



公益社団法人日本港湾協会
The Ports and Harbours Association of Japan

©長崎県観光連盟

三津七湊に名を連ねた秋田湊

秋田市と北前船

江戸時代の秋田市は、土崎の港が佐竹藩の年貢米の集積・積み出し港となり、北前船の寄港地として栄えました。その歴史は、日本遺産の構成文化財となった8件に加え、港町に残る北前船ゆかりの上・下酒田町、加賀町などの地名も含め、様々な形で遺されています。

北前船には、船のバランスを取る重荷として石が積まれましたが福井でしか産出しない笏谷石（しゃくだにいし）は、北前船により盛んに運ばれました。

笏谷石があれば、北前船の寄港地と呼ばれるほど、全国の多くの寄港地に残され、秋田市でも神社やお寺の常夜燈、参道などに活用されています。

秋田市にはまつりや芸能、地名なども含め、北前船が運び、育まれた有形・無形の歴史の名残が息づいています。



北前船ゆかりの歴史を持つまつり（土崎神明社祭の曳山行事）

第30回北前船寄港地フォーラムin秋田

令和4年3月18日（金）～20日（日）にかけて「第30回北前船寄港地フォーラムin秋田」が秋田市で開催され、北前船寄港地の自治体関係者のほか、観光庁や（一社）北前船交流拡大機構、市民等を含め3日間で延べ約1,000人が参加しました。

18日（金）には北前船日本遺産推進協議会に参加する48自治体の首長等が集い、意見交換や前夜祭を行いました。前夜祭では、昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響で北前船寄港地フォーラムが中止となった島根県浜田市の石見神楽の演舞のほか、酒田舞娘や秋田民謡の披露などもあり、大いに盛り上がりしました。

19日（土）のフォーラム当日は歴史学者の磯田道史様の「秋田藩の文化と北前船」をテーマとした特別講演会から始まりました。その後のフォーラム内では、奥井海生堂代表取締役社長の奥井隆様の「北前船が運んだ昆布を世界へ」や特定非営利活動法人日本料理アカデミー理事長の村田吉弘様の「日本料理とは何か」をテーマとした基調講演のほか、「新しい価値を生む



フォーラム（パネルディスカッション）の様子

現代の北前船 食や文化を世界の架け橋に」をテーマにパネルディスカッションを行いました。また、フォーラム後に開催したレセプションでは、わらび座によるミュージカル「北前ザンブリコ」や国民的歌手五木ひろしさんの「北前船」、「港町恋唄」が披露されました。

本フォーラムは、北前船の魅力を全国に発信する貴重な機会となったと同時に、令和4年10月に予定されている次のパリ開催につながる実り多き機会となりました。

日本遺産登録後とこれからの展望

秋田市は、平成29年4月に日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に認定され、北前船に関するパンフレット等の作成や隣県の北前船寄港地である酒田市と連携し、お互いの市の北前船関連施設を巡るバスツアーやまつりの交流などの事業も実施してきております。

令和3年度には北前船の認知度の向上を図るため、寄港地である小樽市と酒田市の取組を参考とし北前船日本遺産構成文化財カードを作成しました。令和4年度はこのカードを活用した事業を推進し、北前船という一つの観光資源を有効活用し、観光誘客に取り組んでいきます。



令和3年度に作成した北前船日本遺産構成文化財カード